



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



象鼻杯を体験する子どもたち



ハス池でハスに語りかける淀さん



ハスとカエルの顔が描かれた田んぼアート



ハスの説明をしながらハスご飯・ハス茶を振る舞う

まちを愛し、人を愛し

自然をこよなく愛する元気人

但東地域を、四季折々の花をめぐるまちにするために、地域を巻き込んで活動に取り組む元気な男性を紹介します。

淀 逸郎さん(59歳)但東町平田

きっかけは台風23号

昨年初めて開催された但東「蓮まつり」。この蓮まつりの仕掛け人は、但東シルクロード観光協会副会長で「いっちゃんおっちゃん」の名で親しまれる淀 逸郎さんです。

淀さんの住む但東町平田の猛原は、元々、日当たりが悪く肥沃な土地ではありませんでした。近年、土地改良やサイクリングロードの整備で日当たりが良くなりましたが、平成16年台風23号の土砂災害で、この辺の田んぼは完全に埋まってしまいました。「土砂を上げて田んぼに戻すのはお金も人手も掛かり大変やだな」と話す淀さんは、自身の田んぼ約10アールの土砂を寄せて中島を作り、周りをビオトープにしました。

平成18年に4種類のハスを植えてハス池を作り、昨年、約5,000本の花をつけるようになったので、多くの方にハスを見てもらおうと「蓮まつり」を開催しました。「いっちゃんおっちゃん」の蓮池」と名付けたこの池は、ドジョウ、カエル、トンボなどの多くの生きものも生息する「生物の多様

性を育む池」となっています。

いろいろなことに挑戦

今年、初めて田んぼアートに挑戦しました。但東町奥藤と大河内内で毎年開催している田んぼアートに使う古代稲を譲り受け、ハス池のそばの自身の田んぼに4種類の古代稲を6月に植えました。凶柄は、ハスの上にモリアオガエルの顔を描いたもので、9月に見ごろを迎えます。「但東地域3つの田んぼアートで何かイベントができたならな」と、夢を膨らませる淀さんに、休みはないようです。

人との触れ合いを活力に

人、特に子どもとの触れ合いが大好きな淀さんは、子どもの野生復帰大作戦「キッズワイルド」にボランティアで参加したり、たんとウチュールリップまつりでは、モンゴルの民族衣装を身にまとい、来場者を笑顔で出迎えてたりしています。「子どもとの触れ合いは、元気がもたらえて楽しいですよ。抵抗力のある強い子どもを増やしたいね」と話す淀さん。地域の子どもの中には、淀さんから

ハスの話を聞いて研究し、夏休み課題として学校に提出する子もいるとのこと。すっかり淀さんは「但東のハス博士」になっている模様です。

8月1日に開催された「蓮まつり」には、市内外から多くの来場者があり、象鼻杯体験(ハスの葉の茎をストローにしてお茶などを飲む)をしたり、自身で作ったハス茶、ハスご飯を振る舞いました。

但東を花いっぱい

「但東地域を花で埋め尽くし、四季折々の花をめぐるまちにしたい」と新たな夢を語る淀さん。淀さんのパワーを持つてすれば、近い将来、春はチューリップ、アジサイ、夏はハス、ヒマワリ、秋はドウダンツツジ、そして冬には雪の華が地域を覆いつくすことでしょう。



▲自然をこよなく愛する淀さん。趣味はゴルフ、山登り

広報マンがやってきた！

幼稚園編

8

出石幼稚園

(出石)

〈園児59人〉



出石市街地に位置する出石幼稚園では、年に数回、近隣の弘道小学校で、1年生と一緒に授業を体験するなど、楽しい交流が行われています。

7月9日、同小学校のプールで交流が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

わくわく、ときどき

楽しみだなあ

「どんなプールかな?」。園児たちは、期待で胸を膨らませながら、園を出発し、小学校へ向かいます。

年長組

(5歳児)の園児が年少組(4歳児)

の園児の手をしっかりと握って、元氣よく歩きます。安全確認も怠りません。



頼もしいお兄さん、お姉さん

プールに着くと、1年生と年長組の園児がバディ(仲間)を組みます。仲良く体操したり、洗体槽につかったり。「シャワーでは、帽子を脱いで!」と、1年生から教えてもらう園児たち。頼りになるお兄さんとお姉さんたちです。



初体験、少し不安:大きなプール大丈夫?

初めて体験する小学校のプール。園のプールより、はるかに大きくて深いです。でも、1年生が上手に見本を見せてくれた



り、時には手を差し伸べてくれたり。おかげで園児たちの不安も解消!上手に潜ることができました。



わたしたちも入れたよ!

年少組の園児たちも、小学校のプールの体験。入っただけで、胸の高さまで水がくる深さですが、怖がらず、駆け回っていました。



早く1年生になりたいな!

プールの時間が終わると、園児たちは校庭でお弁当を食べました。楽しかったプールの時間を振り返りながら、感じることはみんな同じです。「早く1年生になりたいな」。



笑顔の顔輪

但馬から甲子園出場を目指す中学生の野球チーム
兵庫豊岡ボーイズ(豊岡)

中学生の硬式野球チーム「兵庫豊岡ボーイズ」は、平成17年4月に誕生しました。

代表者の山口健輔さんは「設立当初の部員は8人で、試合すらできませんでした。硬式野球ができる場所は限られ、練習は但馬町スポーツ公園まで行っていました。このチームには、但馬地域の優秀な選手が集まっているのに、県レベルになるとコールド負け。初めて公式戦で勝ったのは平成20年です」と振り返ります。



▲第5回岩見町町長旗争奪・岩美テンブルボーイズ大会優勝

礼儀。野球だけでなく何事も一生懸命にする子ども、高校・社会に通用する人間を育てたいと思っています。この5年間で子どもたちは成長し、自然と野球も強くなってきました」と話していました。

このチームは、近年、ボーイズリーグ県大会でベスト4に入ったり、今年7月、鳥取県岩美町で開催の大会で優勝するなど、頑張りが結果となって表れてきました。

現在部員は21人。野球を通して、体力や忍耐力を養い、勉強や学校のクラブ活動とも両立させながら、毎週土・日曜日に旧豊岡南高等学校グラウンドで練習に励んでいます。設立当初からの監督・山崎裕剛さんは「野球技術の前に

練習試合をのぞくと、会う子会う子が脱帽して、「こんにちは」と元氣にあいさつをします。まずは甲子園出場。そして、目指すはイチローやアレックス・ロドリゲスと、子どもたちの夢は膨らみます。